

令和3年度 喜来幼稚園評価について

令和3年度の幼稚園評価を行うにあたり、職員・保護者にアンケートを実施しました。職員のアンケート結果を基にして、保護者のアンケート結果を重ね合わせて幼稚園評価を行い、本年度の重点目標の達成状況と来年度に向けての課題を明らかにしました。

○ 本年度の重点目標 「様々な体験や人とのかかわりを通して心豊かで元気な子どもを育てる」

○ 評価結果の表示について

- A 十分達成できている（積極的肯定90%以上） B ほぼ達成できている（肯定的評価75%以上）
C あまり達成できていない（肯定的評50%以上）D 達成できていない（肯定的評価50%未満）

※ 数字(%)は、肯定的評価：「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」を表します。

本年度の重点目標の達成状況を確認するために、実践事項である（1）健康な心と体づくり（2）魅力ある幼稚園（3）認め合える仲間づくり（4）地域・家庭との連携（5）安全教育の実践 の5つの事項にかかわる項目について、職員と保護者にアンケートを実施し、保育を振り返り、項目ごとに評価を行いました。

○ 実践事項

(1)健康な心と体づくり

〈職員〉

- ① 幼児は、基本的な生活習慣が身についてきた。100%
- ② 遊びや園外保育を通して、幼児の体力は向上している。90%
- ③ 食育活動を通して、幼児の食に関する興味関心は高まっている。100%

(保護者アンケートより)

- ・ 早寝早起きができている。84%
- ・ 毎朝、必ず朝食をとっている。98%
- ・ 幼稚園は、遊びを通して体力作りに努めている。94%
- ・ 幼稚園は、子どもの栽培活動や収穫などを通して食への関心・意欲を育てている。100%

保護者アンケートにおいて昨年度と比較すると、「早寝早起き」の肯定的評価は9%増加しています。それ以外の項目については、昨年度とほとんど変わりはありません。昨年度は在宅での勤務等に移行した生活が影響しましたが、今年度は少しずつコロナ禍での家庭生活に慣れてきたことが、子どもの生活リズム全般に影響していると考えられます。どのような社会状況でも、幼稚園としての役割を果たすことが、家庭と幼稚園の連携を深め、生活習慣の形成を進めていくことにつながると考えます。

以上のことから(1)健康な心と体づくりについては【B】と判断しました。

(2)魅力ある幼稚園

〈職員〉

- ① 幼児の五感に働きかける保育環境を構成したり意欲を引き出したりするかかわりができた。100%
- ② 幼児は園生活を通して、主体的に活動できるようになってきた。100%
- ③ 季節を感じられるような保育を展開し、幼児は園生活の中で、身近な自然に親しむことができた。100%

(保護者アンケートより)

- ・ 子どもは、幼稚園に行くのを楽しみにしている。98%
- ・ 子どもは、幼稚園の出来事や、先生や友達のことをよく話す。92%
- ・ 幼稚園は、様々な行事を通して、特色ある園づくりに努めている。96%
- ・ 幼稚園は、子どもの主体的な体験活動を大切に教育をしている。96%

職員アンケートの「五感に働きかける保育環境構成」の項目において、肯定的評価は、昨年度より増加しました。コロナ禍で行事等の中止・変更を余儀なくされたものもありましたが、日々の生活において見直しを図り、充実につなげたことが要因の1つと考えます。また、そのことが保護者アンケートの全項目で高い評価につながったと考えます。今後さらに魅力ある幼稚園をめざして、柔軟に、そして計画的に取り組んでいく必要があります。

以上のことから(2)魅力ある幼稚園は【A】と判断しました。

(3)認め合える仲間づくり

〈職員〉

- ① 幼児を温かく受け止め、一人一人に応じた指導ができた。100%
- ② 幼児は、人を思いやる心や友達の良さを認め合う気持ちが育ってきた。100%
- ③ 幼児は、人の話を聞いたり自分の気持ちを伝えたりする力が育ってきた。100%

(保護者アンケートより)

- ・ 子どもは、人の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする力が身につけてきている。90%
- ・ 友達とのかかわりの中で、人を思いやる力が育ってきている。96%
- ・ 教師は、子どもをあたたく受け止め、一人ひとりに応じた指導ができています。96%

今年度、「よりよい つながる みんなの幼稚園」を研修テーマに掲げ、職員の資質向上を図ってまいりました。コロナ対応のマスク姿ではありましたが、表情がわかりにくい分、言葉を大切に、子どもの思いを受け止めることを心がけました。また、1クラスあたりの人数と職員数のバランスも良く、クラスの子どものことはもちろん、保護者の方とも情報交換や園生活の様子をお伝えできたと思います。今後も、職員の資質向上の研修を深めて参ります。

以上のことから(3)認め合える仲間づくりは【A】と判断しました。

(4)地域・家庭との連携

〈職員〉

- ① 地域との交流や連携を積極的に行ってきた。78%
- ② 保護者との連携を密にした保育が展開できた。100%
- ③ 保護者から寄せられた意見・要望の対応や、子育てに関する支援や対応を行ってきた。100%

(保護者アンケートより)

- ・ お便りや保育参観、懇談などを通して、園の取り組みや幼児の様子を知ることができた。98%
- ・ 幼稚園は、地域との交流や連携を積極的に行っている。94%
- ・ 子育て相談がしやすい開かれた幼稚園である。98%

地域、家庭との連携においては、職員アンケートでは「地域・保護者との連携」の項目が昨年度同様他の項目に比べると低い結果となっています。コロナ禍で行事の精選や園外活動の自粛等が要因と考えられます。その他の項目では職員・保護者アンケートともに、昨年度とほぼ変わらず高い評価を得ています。今後も、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、“新しい生活様式”を上手に取り入れながら、行事の見直しを図り、豊かな経験の確保に努めていきます。

以上のことから(4)地域・家庭との連携は【B】と判断しました。

(5)安全教育の実践

〈職員〉

- ① 避難訓練(自然災害, 不審者対応含む)交通安全指導を, 計画に基づいて適切に実施している。80%
- ② 職員の災害に対する意識や能力は, 向上してきた。90%
- ③ 幼児の災害や交通安全に対する意識や能力は, 向上してきた。100%

(保護者アンケートより)

- ・ 子どもは, 安全に対する意識が育ってきている。86%
- ・ 幼稚園は, 子どもの安全を考えた防災, 防犯活動ができています。98%

昨年度の結果に比べ, 職員の「避難訓練・安全指導計画の実施」の項目が, 20%の減少が見られました。新型コロナウイルス感染対策として, 密を避ける観点から避難訓練の確保や, 交通安全教室等の外部との連携が難しくなったこと等が要因として挙げられます。また, 職員の「幼児の意識や能力」と, 保護者の「子どもの意識」の項目では, 結果に差が見られます。園生活の様子からは, 地震速報音に機敏な対応を見せる等, 幼児は高い意識を保っていると考えていますが, その様子を十分お伝えできていなかったことが保護者の結果につながったと考えます。それ以外の保護者アンケートの結果は昨年度とほぼ同様の結果となっています。今後は, 避難訓練はもちろん, 職員の安全指導力向上のため図上訓練等, 多様な訓練を行う必要があります。

以上のことから(5)安全教育の実践は【B】と判断しました。

○ 評価

実践事項

- | | | |
|------------------|---------------|------------------|
| (1)健康な心と身体づくり【B】 | (2)魅力ある幼稚園【A】 | (3)認め合える仲間づくり【A】 |
| (4)地域・家庭との連携【B】 | (5)安全教育の実践【B】 | |

重点目標

実践項目の評価より, 本年度の重点目標「様々な体験や人とのかかわりを通して心豊かで元気な子どもを育てる」は【B】(ほぼ達成できた)と判断しました。

○ 次年度への課題

- (1)保育内容の充実と環境構成(思考力の芽生え・主体的な関わり)
- (2)一人一人の良さを認め合える人間関係の構築(豊かな感性と表現・協同性)
- (3)災害対応力の向上と防犯対策(様々な状況を想定した訓練の実施)
- (4)園と家庭との連携(基本的な生活習慣の形成)
- (5)地域と連携した保育計画(社会生活との関わり)